



全校児童が切り出し小刀を持って
朝の手仕事を一斉に始める

割り箸けずり

鉛筆けずり

竹とんぼづくり

竹箸づくり

小刀を持つ右手は刃の方向を決め
左手の親指は小刀を押し出す

両手の微妙な共応動作が

次々とすばらしい作品を生み出す

失われた手先の器用さを求めて

今日も明日も

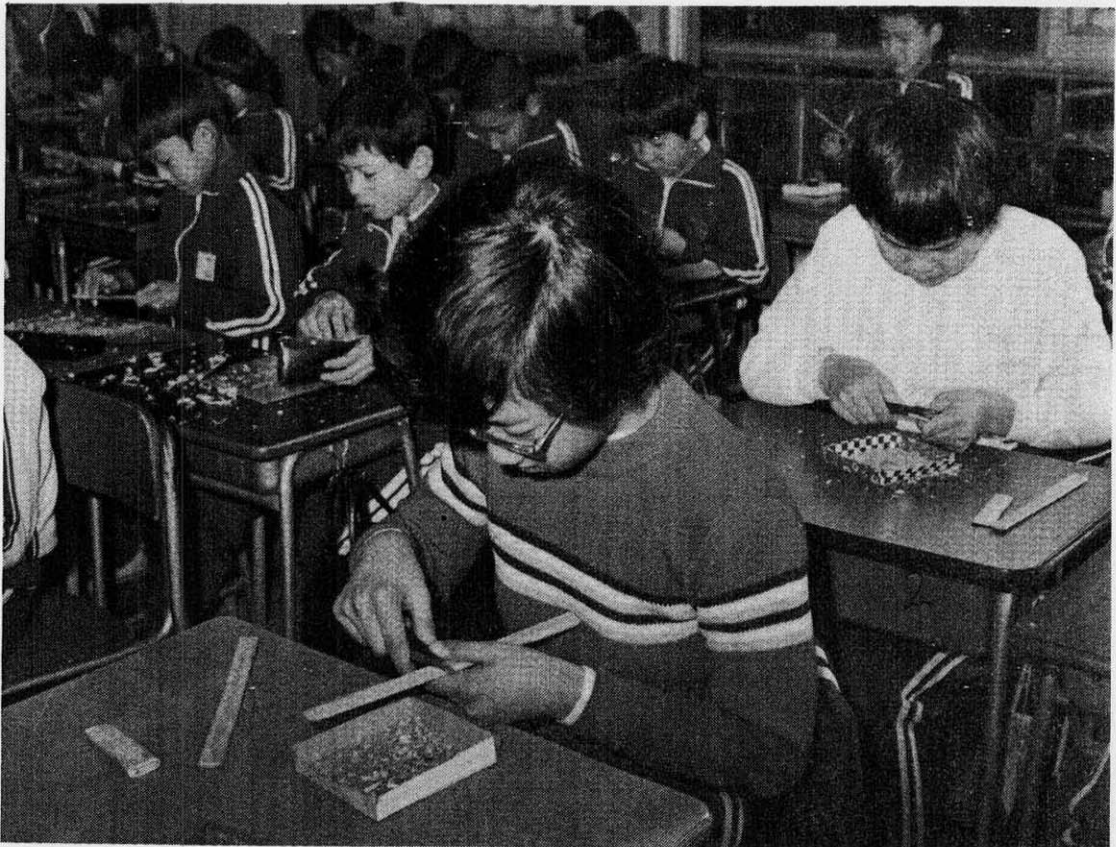
人間性回復の原器として

小刀は生き続ける

昭和55年3月1日

編集／発行

岡崎市教育委員会



(朝の手仕事、ペーパーナイフ作りー羽根小)

— 教育随想 —

人の性は元来善

房宗秀夫



「社会で悪事を重ね、多くの人に迷惑をかけてこんな所に来てしまった私達は、社会から見向きもされないだろうと思っていたが、演芸慰問などの時、暖かい優しい言葉をかけてもらえて、ほんとうに有難いことです。また、愛の図書や桜の苗木などを貰ったりして……、自分達もまだ見捨てられていないのだという安心感と同時に、今度こそは更生しようという心に誓ったことでした。」これは、ある累犯九入の受刑者が私に語った言葉であるが、彼のこの言葉は本心であろう。

それにしても大きなハンディを背負って、矯正施設から社会の荒波に出てゆく者達の中で、社会の落ちこぼれとなるのは、一般の人々が想像するよりも遙かに少ないのではなからうか。

一昨年、岡崎市内の小・中学校の先生方に、私共の施設を参観していただいた時のアンケートで、今更のように感じたことであるが、矯正事業の現況は、余りにも一般に知られていないという事実である。このPR不足は、被收容者にとっても決してプラスになるものではなく、過去の閉鎖的・密行主義的であった当局にも責任があるようである。彼等の殆どは、遅かれ早かれ社会復帰してゆくのであって、これは非常に困難な国家事業ではあるが、根気強く社会生活に対する適応能力を涵養し、改善更生の意欲を喚起すべく、あらゆる努力を尽くすことが必

要なのである。これらの事業は、決して施設職員だけで遂行できるものではなく、幅広い社会一般の御理解とボランティアに期待するところが大きいと言わねばならない。

施設では、休日を利用していろいろな行事を実施しているが、昨年も多くのボランティアを受けることができて、本当に感謝している。

年間を通じての最も大きな行事は運動会であるが、参加受刑者は約二〇〇名で、昨年は或る宗教団体の青年部・婦人部、少年部約一三〇名の積極的参加を受け、職員並びに社会の人を混じえた運動会を実施することができた。拘禁施設内で、御婦人や子供さんと共に競技に出場できるなんて、彼等にとっては夢のような現実だったのだ。この会場における雰囲気からは少しの違和感もなく、そこには、暖かい心のふれ合いと、すべてを忘れた赤裸々な人間をみることができたのである。彼等の喜びようからは、平素の厳正な規律や、出所時の不安などは微塵にも感じられず、彼等の犯した罪の状況を想像することもできない。そこからは、人の性は元来善であり、真の悪人はいない証のようなものを感じずにはおれない。

いつも彼等に接して思うことは、人間の愛について教えこむことであり、彼等には、信頼して相談できる誰かがほしいということである。

(岡崎医療刑務所長)



噴水泡事件

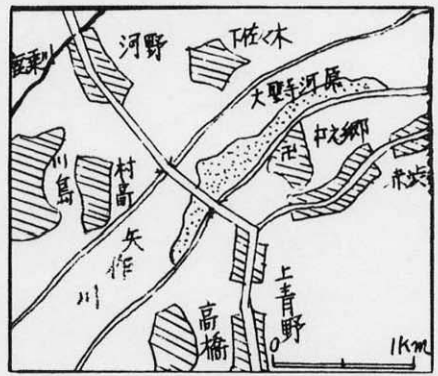
加茂健三

オーストリアは第二次世界大戦中ソ連によってナチから解放されたので、その記念に各地にソ連兵士の銅像が建てられた。ウィーンの街の広場にも高い塔の上にもソ連兵士の像が立っていて、そのまわりが池になっており噴水が揚っていた。

ところが、時々この噴水がとてつもなく高く揚がり、銅像が見えなくなってしまうので、ソ連大使館から苦情が出る。役所の関係者が噴水を調整しておくこと、また誰かが夜中にコックをひねって噴水を高く揚げてしまおうということだった。

また、ある銅像の池の側を通った時、あたり一面大変な泡だらけだったので何事かと驚いていると、通訳が「こういうことは度々あるのですよ。誰かが粉石けんを投げ込むのです。一種のレジスタンスでしょう。」と笑っていた。

ヨーロッパでは、道路、鉄道、河川など互いに隣国に通じているので国際関係は極めて微妙で、支配国、被支配国の関係は特に深刻であろう。こうした厳しい



— ふるさとの山河 —

大聖寺河原

岡崎市中之郷町に大聖寺という寺がある。この寺の西側、矢作川の左岸より大きく広がっているのが、大聖寺河原と呼ばれる地である。その名が示すように、大聖寺の寺号より発した名称である。

河原の広い所は、川幅の三分の二以上もある。長い間に矢作川の上流から運ばれてきた土砂によってできたものである。この河原の形成に長い年月がかかったことは、河原に繁茂する草木によっても測り知ることができる。ずいぶん大な雑木もはえている。そのためか、この地には、いく種類かの鳥を見ることができ、美矢井橋のすぐ北の左岸に「岡崎市鳥獣保護区」という看板も立てられている。かたんに河原といっているが、この地は、水面よりかなり高くなっている。そのために、よほど多くの水が出ない限り、河原全体に冠水することはない。したがって、木も大きくなるまで無事に育

っているのだろう。しかし、よく見ると河原の中に、大小三本の流路跡を見つけたことができる。いちばん岸よりの流路跡には、草がおい茂っている。小さな木もはえている。土が被覆し、砂を見ることはできない。それに対し、他の二本はほとんど草は見られず、白い砂が表面に出ている。歩くと、くつの中に細かい砂が入ってくる。新しい流路跡であることが分かる。

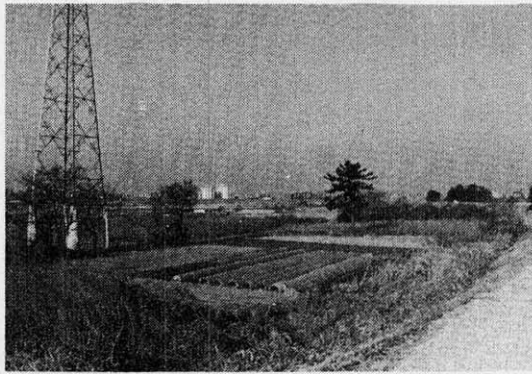
河原の多くは、草木に覆われているが決してそうばかりではない。ところどころ畑として利用している。その主体は桑である。もともと氾濫に強い農作物であり、荒地でも育つ。野菜も育てられている。また、昭和五十四年六月に造られたばかりの運動広場もある。野球ができるようにバックネットも設置されている。

大聖寺河原のある左岸堤防の外側へ目を向けてみるのもおもしろい。前述の大

聖寺のある一帯である。一見して、自然堤防であることが分かる。ただ、ここは付近にある自然堤防とくらべるとずいぶん高い。土地の人の話によると、ここは冬の西風が強く、砂が吹き寄せられて積ったそうである。大聖寺の本堂を造る時には、この飛砂を防ぐために、松を何百本と植えている。今も、その松の一部が本堂西に残っている。大聖寺から東より二百メートルほどの所に丘があり、松がはえている。砂丘である。昭和初期までは、このような砂丘がいくつもあつたという。

遠足の候補地としてよく利用されている。しかし、改めて見直してみると、いろいろなことに気がつく地でもある。

(城南小 高木和宏)

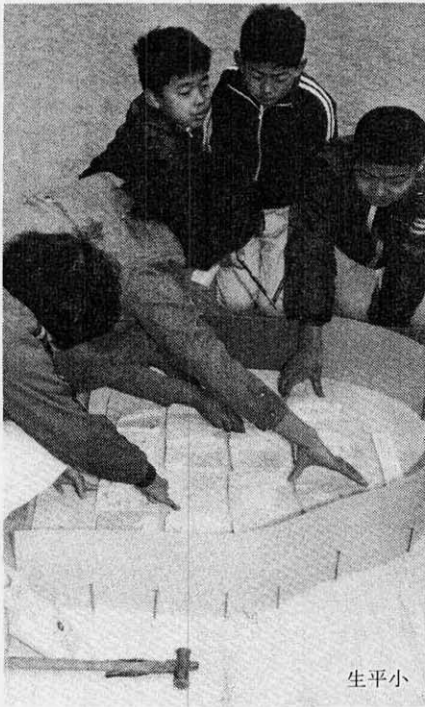


国際社会の中で生きてきた民族、人々の「知恵」を、ユーモラスな噴水泡事件の中に見た思いがする。
(竜美丘小)

少年との出会い

内藤佳代子

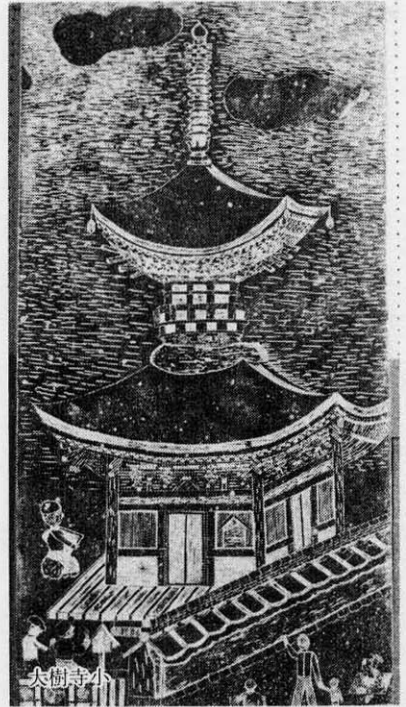
映画「卒業」の舞台となったカリフォルニア大学へ行くことにした。それには、ケーブルバス↓地下鉄と、乗り継いで行かなければならない。やつの思いで、地下鉄の入口にたどりついたものの、無人化で、ただ機械が整然と並んでいるばかり。切符を買うにも、どこにお金を入れていいかわからず、うろろろしている。カバンを抱えた中学一年生ぐらいの少年が、にこにこしながら近づいて来たのである。私たちは、地図を指さして、片言で、「パークレー。」という、少年は、「COME ON (あとわからず)」といいて、手まねをした。彼のあとをついて行くと、切符を親切に買ってくれたのである。その上、乗り場まで案内してくれた。私たちは、感謝感激。でも、「サンキュー。サンキュー。」と、繰り返すばかり。少年は、手をふりながら、反対側の地下鉄に乗って行った。私たちは、無事大学へ到着。言葉が通じなくても、心が通じた一瞬であった。
(愛宕小)



生平小

ぼくのわたしの

卒業制作



大樹寺小

カチン！ カチン！

鋭いみの音が、澄みきった
冬空にはねかえって行く。

「先生！ ここんとこ、もつ
と深く彫る？ とつても固い
んだもん。」

「もうちよつと深くしたいな。
ガンバレヨ。いつまでも残
るんだからな。」

大きな岩の彫刻に、四・五名
ずつの児童が取り組んでいる。
のみを打ち手にまた力が加わる
カチン！ カチン！

「ワア！ いいなー。ダイナ
ミックな構図が、おれたちに
ピッタリだ。」

「カッコイイ！ 私たち一人
一人が力を合わせると、こん
なすばらしいものが出来るん
だね！」

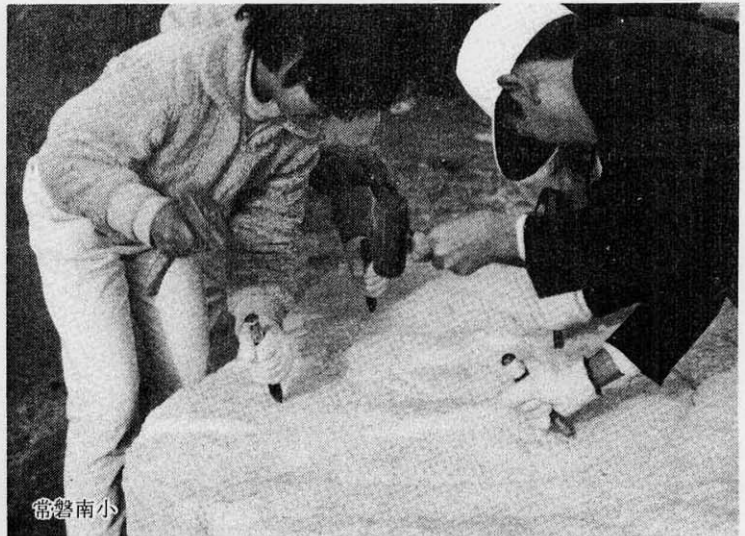
卒業式の練習を終えた体育館
の前で、卒業していく生徒たち
が歓声をあげる。

清そな体育館の外観に、温か
味と、華やかさが加わり、体育
館に息吹きを感じられるようだ。

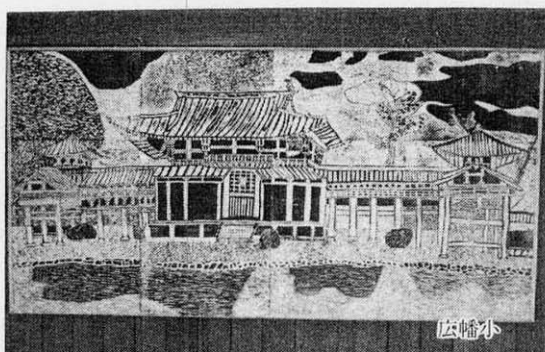
※この特集は、先に編集部か
らの問い合せに回答いただ
いた学校を対象にして、編
集しました。



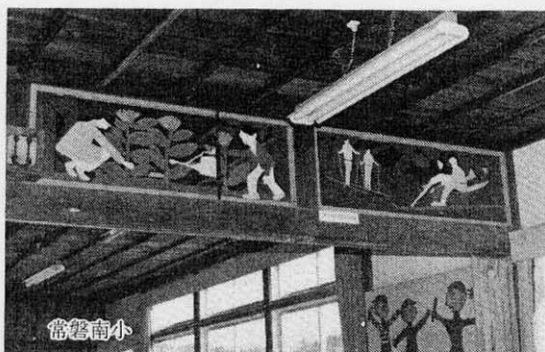
大門外



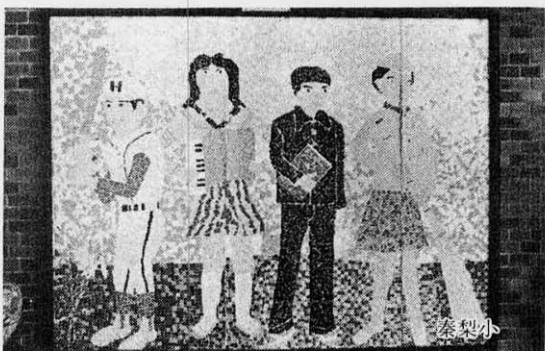
常盤南小



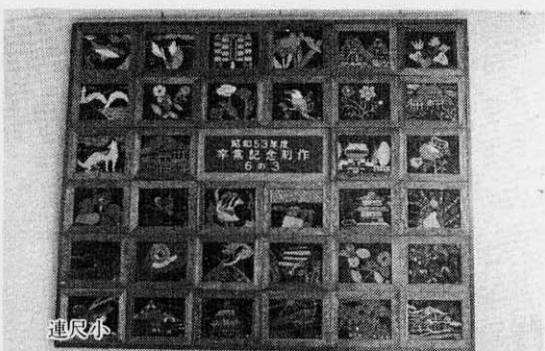
広輪小



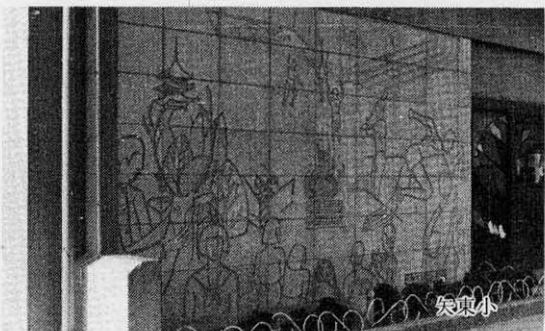
常磐南小



泰梨小



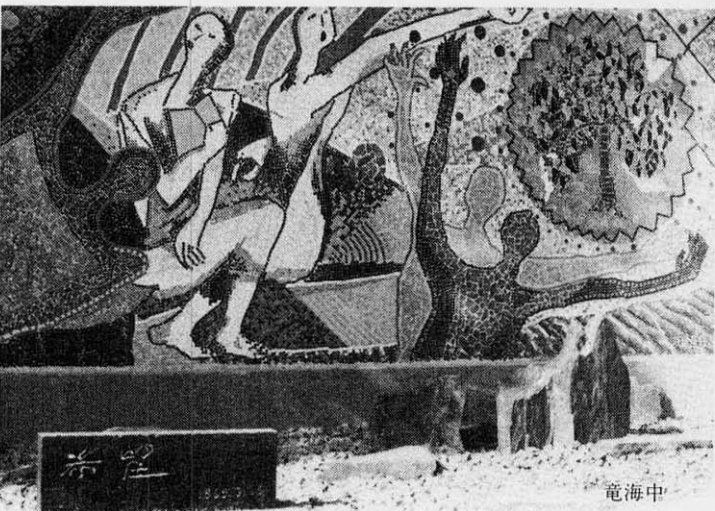
連尺小



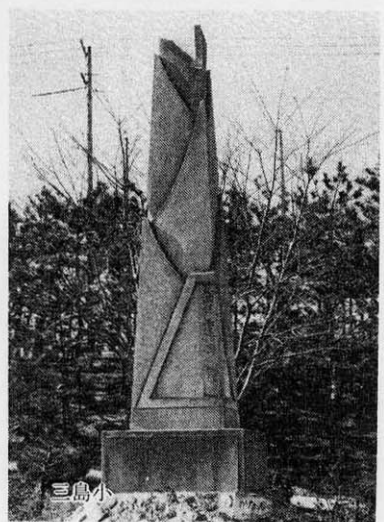
矢東小



河谷中



竜海中



三島小

教育委員会賞

—54— 教育研究論文入選者

●個人研究の部

学校名	氏名	主 題
竜美丘小	金子 一元	豊かな表現力をめざして
根石小	神尾美佐代	感動する心を育てる詩の指導
連尺小	杉浦博司	言語力を培う読みの授業
本宿小	加藤貞子	音読指導の実際
恵田小	加藤 進	児童詩出発についての一考察
大樹寺小	野 勢 明	意欲的に読ませるための書く指導
六名小	福 応 兼一	学ぶ楽しさを生み出す授業の創造
大樹寺小	長坂 則彦	社会事象の観察能力を育てるノートめざして
大樹寺小	杉山 隆之	数学的な考え方を育てる算数指導
大門小	中川 朗子	ゲームを通して数領域を広める算数指導
矢東小	柴田安則	数概念を高める暗算指導
竜美丘小	清水英子	自然に親しむ楽しさを味わう理科指導
大樹寺小	石井 洋	子どもがつくる実験学習
六北小	長谷川四郎	表現力を高める実践活動
羽根小	高村むつみ	四年生の絵画指導
井田小	鈴木 勤三	全校皆泳をめざす水泳指導
連尺小	鈴木 松三	道徳心情の変化をはかる道徳指導
連尺小	山下 八重	登校拒否児の指導
竜谷小	加藤 順子	子どもと共に
愛宕小	白井正壮	主体性を育てる放送学習
常磐小	近藤公一	調査学習による社会科学学習
常磐中	早川 円浄	郷土の素材、竹で家を作る
東海中	河村喜美	長距離走指導の一考察
河合中	古田 忠久	栽培領域の効果的な題材を求めて
矢作中	名倉 昭人	追求活動を促す授業過程の構成
南 中	鱒原 豊	進路指導のための資料づくりとその活用
美川中	鈴木 忍	学習を深め生活を高める経験単元学習

●共同研究の部

城南小	㊦黒野喜美	城南っ子づくり
矢南小	中川 聖子 川村きぬえ	社会事象を意識する子どもをめざして
細川小	㊦二瓶千秋	ゲームをとり入れた算数指導
六北小	現職教育部	豊かな表現力を育てるための指導
六中小	㊦柴田和一	よりよき価値意識に高める道徳指導
美合小	企画推進 委員会	体験学習の一考察
連尺小	特殊教育部	交流学習のあり方を求めて
秦梨小	現職教育部	自己管理を支える、地域ぐるみの保健環境
六中小	㊦鈴木幸二	「三つの生活目標」の実践をめざして
葵 中	社会科部会	学習問題を計画的に追求する授業の創造
甲山中	㊦岡安信彦	ひとりひとりを生かす数学の授業
葵 中	数学部会	ひとりひとりが生きる学習
矢作中	㊦平野安世	できる学習指導の研究と実践

応募数 389 ㊦ 個 233 ㊦ 個 61
共 62 共 33

努力賞 ●個人研究の部

梅園小	島津江万喜子	梅園小	飯見紀男
梅園小	野々山こず江	根石小	三浦啓次
緑丘小	島田成子	岩津小	神谷知三雄
三島小	谷川光代	矢南小	石川春次
広幡小	後藤志津代	連尺小	岡本知子
竜谷小	神尾房江	矢東小	和田美奈子
山中小	片山美恵子	根石小	鈴木茂幸
本宿小	小栗春枝	男川小	原 博司
細川小	杉浦絃子	三島小	萩野スズ
六北小	本田早苗	岩津小	内田一男
城南小	水野昌孝	福岡小	野々山宣子
藤川小	梅村京子	矢北小	浅井建一
六南小	西村経次	大樹寺小	吉田久子
矢北小	後藤マツエ	矢南小	品川ひさ子
城南小	高木和広	梅園小	稲垣 豊
梅園小	鈴木 優	三島小	牧野伊佐夫
広幡小	石川昌文	美合小	岩月 勲
竜谷小	安江知江子	南 中	石原比朗志
細川小	二瓶千秋	美川中	佐宗正義
大門小	小沢 弘	六ツ美中	杉浦健支
矢東小	川瀬哲夫	城北中	藤井孝弘
矢南小	太田恭子	葵 中	本多有三
梅園小	八田起左子	六ツ美中	酒井正子
井田小	宮崎昌子	竜海中	大久保慎一
福岡小	柴田正寿	城北中	山田奈納子
福岡小	市川 満	東海中	中根利枝子
竜谷小	山本信夫	六ツ美中	籠橋澄夫
矢北小	高木美恵子	城北中	朝雄伸子
梅園小	竹内孝之	六ツ美中	安杖康則
矢北小	蛭川秀子	河合中	柴田幸夫

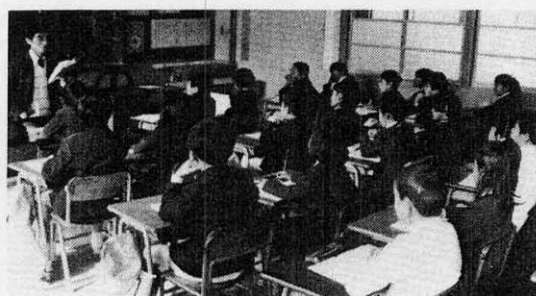
●共同研究の部

細川小	国 語 部	矢作北小	第 4 学 年
奥殿小	奥平晴夫 手嶋秀夫	岩津小	現職教育部
細川小	㊦東原 仁	葵 中	国 語 部
矢東小	現職教育部 研究部	矢作中	理科部 代表 岩瀬 信子
梅園小	理 科 部	美川中	体育部 代表 鴨下 智幸
愛宕小	理 科 部	東海中	岡田 哲弥 兼 平 友子
福岡小	現職教育部	六ツ美中	技術家庭科 代表 石原博文
竜美丘小	音 楽 部	甲山中	英語部 代表 杉浦 恵美子
六北小	現職教育部	東海中	千田水城 柴田 敏希 大野 漕子
井田小	体 力 づ くり 会 第 三 部	岩津中	浅井 禮子

教育日々



教員歴は、たった五年の私であるが、毎年多くの心に残る子どもに出会っている。今年もきつといつまでも忘れないだろうと思われる子どもが一人いる。その子Sは、算数と体育が好きだ。体育の時間、ドッチボールをすると、初めはとでもはりきって組分けをしたり、判定をく



だしたりしている。プレーもなかなかうまい。ところが自分が当てられると、بيضと怒ってしまい、あげくの果てにボールをかかえて一人で運動場の隅に行ってしまうのである。

彼は、ルールよりもくやしいという自分の気持ちの方を大事にしているのだ。

そんなSが友だちからさらわれているかというところでなく級友の半数から支持を受けている。先日も学芸会があったが、本番の四十分前になってもSが現われない。最後の練習にはいったが、だれもがはりが無い。

毎朝の二十分間読書の時間を、子どもたちは心待ちにしている。私の読み聞かせを楽しみにしているのである。

今、読んでいるのは、「三角あき地に集まれ」（山口勇子作）。少年団の活動のくだりになると子どもたちは、がぜん身をのり出して聞くようになる。

「先生、もっと読んでよ」

「今、いいところじゃん」

「でもな、そんなことすると、きりが無いぞ」

「ねっ、おねがい。あとちよつとでいいから読んで」

活発な子どもたちに押されが

そこへSが入ってきた。みんな「S君」と言っており、その後の練習は、水を得た魚のように生き生きと進んだ。Sには不思議な魅力があるのだ。彼の魅力はもう一つ、絵であ

子どもと絵

六ツ美南部小 加藤まち子

お話の絵、見てきたことの絵、特に人物の絵がすばらしい。顔は画面の五分の一、目はくりくりと何でも見えそうで、口は顔の半分もあるかと思えるほど大きく、何かをさげんでいる。

生活に生きる読書

根石小 中山秀昭

日記に書いてくるからさ」

次の日、提出された日記には、感想がいっぱい書かれていた。

一月二十一日 とし子

私は、ホームラン少年団は、すばらしいと思います。

肩はガンと張り、足が太い。彼はいつも一番に仕上げるので、線は元氣よく躍びはねているし、着色もていねいではない。しかし、画面は実に生き生きしているし、彼の主張がそこにあるよ

うな気がする。

この子の絵を見ていると、一定の枠にはめこもうとしている自分のおろかさを感じないではいられない。そんな時に、教育の深さをつくづく考える。

それは、人数は多いし、大学生の世話をする人はいるし、名前も楽しそうだからです。それに、今度の日曜日に、歩こう、歌おう、調べよう」とかいつて、と

り市まで、子どもたちだけで出かけるからです。

でも、私たちの組だつて同じようなこと、できると思います。もし先生が、大



れはですけれどね。……

こうして今、子どもたちは、あれもやりたい、これもやりたいと、読書ノートや日記にいっぱい書くようになってきた。子どもたちは、他校の生徒とボールの試合をやるんだと、日曜のたんびに集まって練習するようになった。

生活をふりかえりながら本を読み、また本を読んで生活に生かす。こうした態度を、読書の時間を過して、是非身につけてほしいと思ひながら、今日もまた読み聞かせをしているわけである。

一年のあゆみ



▶新任教員自主研修会

(八月三〜四日)

4・2 新規採用教員一〇名を迎えて辞令伝達式

3・28から三日間少年自然の家で新任教員の集い
現職教育総会を南中で開催
「太陽の城」が完工し、オープンする

4・20 第六回岡崎子どもまつりを、菅生川原で
野性鳥獣保護活動で河合中が文部大臣賞を受賞

5・5 第二十三回中学校総合体育大会開催
全日本学校緑化コンクールで、三島小・福岡中が
日本一となり大賞を受賞

5・27 全国植樹祭が藤岡町で開催され、岡崎からも児童
生徒が一二四名参加

6・8 竜美丘小研究会
教職員体育大会を井田小・葵中・常磐小の三校で
市制施行六十三周年記念式典で四〇名が表彰さる

6・16 葵中研究発表会
県健康優良学校として岡崎小が表彰を受ける

7・11 中学校市長杯総合体育大会始まる
矢作中が、男子・女子・総合とも優勝

7・22 小学校球技大会始まる
「明日の岡崎を考える」第六回市民大学の開講

7・31 ①7・22渡辺 格氏 ②8・5小田切 進氏
③8・12富田 勲氏 ④8・19三浦 秀文氏
⑤9・2秋山ちえ子氏 ⑥9・9松山 善三氏

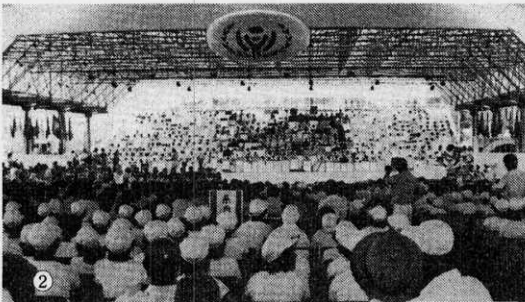
世界と日本の子ども展開会式を愛知青少年公園に
て挙式、三六四名の児童生徒が岡崎から参加

7・1 現職教育各部の夏季実技講習始まる
新任教員自主研修会を自然の家で
第十七回小学校水泳大会を葵中プールで
生徒模擬市議会

8・3 ①8・10 ②8・18 ③8・10
ハンガリー少年少女合唱団、市民会館で公演
親善都市児童生徒相互訪問

8・16 ④8・16 ⑤8・19 ⑥8・21 ⑦8・22
石垣市訪問 8・21 ⑧8・22 福山市訪問

8・16 ⑨8・16 ⑩8・19 ⑪8・21 ⑫8・22
石垣市訪問 8・21 ⑬8・22 福山市訪問



②



①

国際児童年記念行事



③

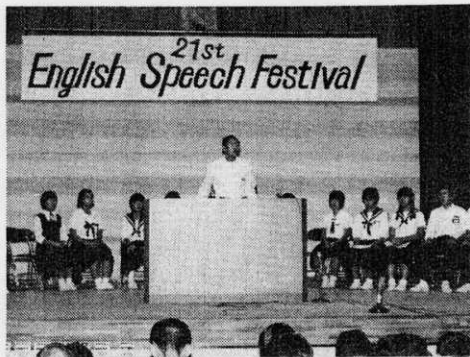
①国際児童年を記念し菅生川ぞい
に『太陽の城』が完成
(四月二十九日)

②「世界と日本の子ども展」開会
式(愛知青少年公園)へ岡崎から
児童生徒三六四名参加
(七月三十一日)

③姉妹都市福山市へ七十五名が親
善訪問(八月二十一〜二十二日)



▶英語スピーチフェスティバル
(九月二十一日)
◀視聴覚ライブラリー、文部大臣賞
受賞
(十月十七日)



3 ・ 1	2 ・ 15	2 ・ 9	1 ・ 29	1 ・ 25	1 ・ 17	12 ・ 25	12 ・ 22	12 ・ 7	11 ・ 30	11 ・ 24	11 ・ 23	11 ・ 22	11 ・ 14	11 ・ 6	10 ・ 28	10 ・ 27	10 ・ 21	10 ・ 17	10 ・ 12	10 ・ 10	9 ・ 28	9 ・ 25	9 ・ 23	9 ・ 21	9 ・ 15	9 ・ 14						
市内全小中学校の緑化の現状を伝える写真集「緑と子ども」を発刊	が受賞	第三回県芸術文化選奨に、「岡崎のハーモニー」	海外研修報告会で十四人の代表者が報告	岡崎小研究発表会	根石小研修会	小中学校書き初め展を市美術館で	第六回冬期研修会を少年自然の家で(二十七日まで)	ストックホルム少女合唱団公演、小中生無料開放	細川小研究発表会	市学校保健大会で健康優良・よい歯児童生徒表彰	第七回教育文化賞授賞式	第七回岡崎のハーモニーを市民会館で	城南小研究発表会	矢作東小研究発表会	香山中研究発表会	ソニー理科教育論文で愛宕小・竜美丘小が優秀賞	小学校陸上競技大会を、県営グラウンドで	小学校造形おかざきつ子展を菅生河原で	第十六回造形おかざきつ子展を菅生河原で	世界の子ども絵画展を太陽の城で	第二回岡崎まつり始まる	中学校新人総合体育大会	視聴覚ライブラリー、文部大臣賞を受賞	南中学研究発表会	第六回中学校技術家庭科作品展を市体育館にて	第二十六回理科作品展を竜美丘小にて	教育研究会を葵中にて	本宿小研究発表会	岡崎市吹奏楽祭を勤労会館で	英語スピーチフェスティバルを太陽の城で	中学校新人水泳大会 優勝男子葵中・女子甲山中	河合中研究発表会



④岡崎城を見学する石垣市の生徒たち
(八月三日)
⑤岡崎まつりに協賛して「世界の子ども絵画展」を太陽の城で開催
(十月二十七日～二十八日)
⑥ストックホルム少女合唱団と岡崎のハーモニーの共演
(十二月二十二日)

昭和54年度研究発表校の研究動向一覧表

発表月日	校名	分野	研究概要	研究概要	研究資料(研究者・講師・助言者)
6月8日	竜美丘小学校	国語理科・音楽	確かな観察と豊かな表現・(国語、理科、音楽を中心にして)	観察事実、表現活動のない学習は深まらないという考えを基底にして、作文、飼育栽培と観察、音楽を中心に実践研究した。	研究物「確かな観察と豊かな表現」 講師 西丸震也先生 助言者、清水孝之・長浜喜孝・下田偉咲夫先生
7月3日	葵中学校	全科	新教育課程に立つ自主性・協力性を育てる学習の進め方	新しい教育課程を前にして、充実した教育とは何かを求め、その重要な手がかりとして「学び方」指導に着目し研究を進めた。	研究物「新教育に立つ 自主性 協力性を育てる学習の進め方」 資料「学習の進め方」「生徒手記」 講師横浜国立大教授奥田真丈先生
9月14日	河合中学校	教育全般	自ら学び、自ら汗する99	課題を中心に学習を展開、環境保全の諸活動を通して、自主的に学ぶことのできる河中生の育成を追求した。	研究物「自ら学び 自ら汗する99」 「汗するわれら」 講師 愛教大助教授 安彦忠彦先生
9月25日	本宿小学校	国語	国語学習における読む、書く、話す、綴ることを高める学習指導法の研究	確かな読みをしっかりと見つける。 ・指導の理念・よい授業の進め方、 ・芦田教士へのとりくみ ・わかったこと、とくこと	研究物「読む力を育てる」 資料「音読朗読練習の手引き」 講師 倉員富美子安藤いつ代先生 助言者 伊藤孝一先生他5名
10月12日	南月学	特別教育活動	進学指導の正常化をめざして	・ 進学指導基本方針と学習指導 ・ あたたかい人間関係の樹立をめざす生活指導 ・ 自作資料作りとその活用	研究物「進学指導のあゆみ」 講師 岡高長片岡清見先生・岡商高長日比野武男先生・安学附長富田太先生・矢中長長嶋利一先生
10月30日	六中道徳	道徳	よりよき価値意識に高める道徳指導 — 思いやりのある六ツ美の子 —	児童の価値意識をよりよきものに高めさせることに重点をおき、道徳の時間の指導ならびに道徳的実践指導について研究した。	研究物「思いやりのある六ツ美の子」 講師 文部省教科調査官青木孝頼先生、奈良薬師寺管長高田好胤師 助言者 村田昇先生他3名
11月6日	香山中学校	教育全般	ひとりひとりを生かす指導の探究	主体的学習における形成的評価と補充・深化、ゆとりの時間、青少年赤十字活動における奉仕と勤労のあり方を求めた。	研究物「ひとりひとりを生かす指導の探究」 資料「基礎知識表」「奥殿と大給」 講師 橋本祐子先生
11月14日	矢作東小学校	算数	子どもの考えを大切に する算数指導 — 計算力の向上をめざして —	・ 発展性を意図した計算指導 ・ 基礎基本の徹底と暗算指導 ・ 教具の開発 ・ 個別指導の強化	研究物「わたしの実践記録から」 資料「矢東っ子の計算」 助言者 大須賀康宏先生、三浦鎌次先生、富田丈三郎先生
11月22日	城南小学校	国語	活力ある城南っ子を求めて — 書くことを通して確かな考えを深める —	思考の明確さ考えの創造性をめざし、個を生かした書くことに取りくむ。確かな教材観と理解と表現の関連指導のあり方を追求した。	研究物「活力ある城南っ子を求めて」 資料「実践記録・折り折りの記」 講師 糟谷正孝先生
12月7日	細川小学校	国語・算数	自ら調べ、磨き合い 生きる学習の建設 — 国語・算数とおして —	・ 座席表による授業の組み立て ・ 抽出見による個の変容 ・ 単元ノートづくり	研究物「自ら調べ磨き合い、生きる学習の建設」 資料「わたしたちのノート」 講師 愛教大教授 霧田一敏先生
1月29日	岡崎小学校	音楽	いつでも、どこでも だれでも 歌声を	・ 歌唱を中心に音楽の実践研究 ・ 和音和声のドリル学習 ・ テキストを作成し、全担任の音楽指導を実践した。	資料「岡小のうた」「和音と和声のドリル」「音楽テキスト」 講師 団 伊玖磨先生 助言者 藤田 竜生先生



おしらせ

こだまする「岡崎のハーモニー」

第三回県芸術選奨文化奨励賞を受賞

愛知県芸術選奨文化奨励賞は昨年、本市においては造形おかしきつ子展と葵合唱部が受賞しているが、本年度はさらに岡崎のハーモニーが二月十五日、愛知会館において受賞した。

昭和三十年から始められた市内小中学校連合音楽会、それとあわせて昭和四十一年から始まった音楽部合同発表会は、昭和四十八年から学校のわくをはずし「岡崎のハーモニー」へと発展した。以来「岡崎のハーモニー」は画期的に合唱教育のレベルアップに貢献し、外国から来演する少年少女合唱団と共演できるほどに成長して、全国の教育関係者から高い評価を受けるようになった。

【寄贈刊行物・資料等】
 ◇わが書と書論 神谷葵水、愛教大東洋学教室大判一八六 P
 ◇栄光への道 平泳き日本一
 矢作中学校
 ◇読書指導 根石小学校
 ◇生徒指導 三教研生徒指導部
 ◇「父京助を語る」(職員読書感想文集) 南中学校

する事項として認められたもので、さらに、次のような業績が対象となった。

1 「音楽大会」「岡崎のハーモニー」が合唱コンクール全国最優秀(六名小・葵中)全国大会出場述べ十八校(三島小・六名小・矢作中・葵中)という過去の好成績の支えになった。

2 「昭和五十二年度」第五回岡崎のハーモニー」を機に全国合唱教育研究会が結成され、全国の参会者から絶賛を受けた。

3 ブラハ少年少女合唱団、ハンガリー少年少女合唱団、ストックホルム少年少女合唱団と共演4夏休み中の指導者研究会、ブロック練習会、吹奏楽クリニック等積極的な研修活動を続けた。

昭和54年度 中学校陸上・水泳最高記録

○は新記録

性別	種目	記録	氏名	校名	種目	氏名	校名	記録
男	1年 100m	12' 4	梶 顕二	城北	100m 自由形	小池 誠	竜海	59-26
	100m	11' 6	酒井 健次	矢作	200m 自由形	小池 誠	竜海	○2-09-31
	400m	53' 2	古田 祐	甲山	400m 自由形	小串 重治	甲山	5-02-68
	800m	2' 04' 9	岸原 英行	甲山	100m 平 泳	武田 高泰	矢作	1-15-2
	1・2年 1500m	4' 34' 8	神尾 浩孝	矢作	200m 平 泳	武田 高泰	矢作	2-43-0
	3000m	9' 19' 0	松本 久	甲山	100m 背 泳	発知 良介	南	1-11-2
	100m H	14' 0	斉藤 利彦	美川	200m 背 泳	発知 良介	南	○2-32-6
	800m R	1' 39' 9	杉山：酒井 野野	矢作	100m バタ	奈良 了輔	甲山	1-10-2
	低 400m R	50' 0	中野：柴山 野	美川	200m バタ	細井 誠	矢作	2-40-4
	走 幅 跳	6m 11	石原 靖士	東海	200m 個 ×	山田 哲郎	城北	○2-26-70
走 高 跳	○ 1m 88	片岡 達宏	葵	400m 個 ×	山田 哲郎	城北	○5-32-0	
砲 丸 投	14m 49	向坂 卓也	岩津	400m 混 R	榎垣：川窪 泰良、栗田 春日井、栗田 春日井	甲山	4-49-3	
三種競技 A	○ 2906	酒井 健次	矢作	400m R	小串：榎垣 春日井、栗田 春日井	甲山	4-26-2	
女	1年 100m	○ 13' 3	太田まゆ美	美川	800m R	小串：榎垣 春日井、栗田 春日井	甲山	9-37-8
	100m	12' 9	牧野美佐子	葵	100m 自由形	綿民 靖子	甲山	○1-05-6
	200m	28' 0	長谷部智江	矢作	200m 自由形	野村 礼子	甲山	2-29-2
	800m	○2' 25' 4	村瀬 智美	岩津	400m 自由形	今泉 陽子	東海	○4-58-6
	80m H	12' 7	石川小重子	岩津	800m 自由形	今泉 陽子	東海	○10-11-12
	400m R	52' 8	前田：石川 宗形、村瀬 智美	岩津	100m 平 泳	安田 直美	矢作	○1-24-2
	低 400m R	54' 6	野本：二村 佐野、久留 美	六ツ美	200m 平 泳	安田 直美	矢作	3-02-0
	走 幅 跳	5m 03	榎原 伸子	甲山	100m 背 泳	真野 靖子	岩津	○1-19-4
	走 高 跳	1m 50	村瀬 智美	岩津	200m 背 泳	真野 靖子	岩津	○2-45-4
	砲 丸 投	12m 01	建部 光代	東海	100m バタ	酒井 香江	葵	○1-12-9
子	三種競技 A	2488	菅田理恵子	岩津	200m バタ	桑 雅子	甲山	○2-41-0
	100m 自由形				200m 個 ×	酒井 香江	葵	○2-46-3
	200m 自由形				400m 個 ×	桑 雅子	甲山	5-54-4
	400m 自由形				400m 混 R	高桑：神尾 良民	甲山	○5-11-8
	100m 平 泳				400m R	野村：桑 雅子	甲山	○4-34-8
	200m 平 泳							

■河合中に県知事賞
 第九回鳥獣保護実績発表会
 二月十四日、名古屋市の県産業貿易館で行われた。第九回鳥獣保護実績発表大会において河合中学校は「県知事賞」を受賞した。

この発表大会は、昭和四十六年以来、県下の小中学校や民間団体の鳥獣保護活動について開かれていけるもので、河合中学校の受賞は今回が四度目である。

■県自作視聴覚教材コンクール
 (8ミリ映画)
 優秀賞「武者のほり」
 <ビデオ>
 優秀賞「夏すずし駒ヶ原」
 優秀賞「島のくらし」
 優良賞「住みよい環境づくり」
 佳作 二点

■岡教組五十五年役員決まる
 △執行委員長 河合洋人・常磐小▽副委員長 近藤公一・常磐中▽書記長 中山昌司・矢作中

▽書記次長 岡安信彦・甲山中▽組織部長 鈴木忍・美川中▽情宣部長 清水厚治・城北中▽教文部長 平野有行・葵中▽調査部長 山田一恵・藤川小▽福田部長 石川春次・矢南小▽青年部長 岩月慎自・連尺小▽婦人部長 本多光子・城南小▽会計委員 杉浦健支・六ツ美中▽会計監査 熊谷満義・南中、二村邦彦・福岡中

道路原標



点

所在地 — 岡崎市福岡町

福岡郵便局から東約五〇米の米屋さんの店先に、写真のような道路標識がある。それを調べようと建設省の出張所や県土木事務所を訪ねた。資料は簡単には見つからなかったが、いろいろな話を総合すると、東西に走る福岡・市場線の起点であり、南北に走る福岡・柱線の起点を示すものらしい。しかし現在はこれより西約五〇米のところにある道岡崎・碧南線が開かれたことにより道路原標としての意味はなくなり、道路の移り変りを示す歴史的価値を残している。

米騒動の時、一銭や二銭の銀貨をじんきち袋につめて、裏の藪の中でじつと息を殺してかくれていたという天皇陛下と同年の米屋のおばあちゃんが小学校入学の時には建っていたような気がするという。「そのころ道は三尺か四尺で、あの喫茶店のあるところは堀り割りで、高坊主が出るつちゆうて、おそがかったもんだが。」とのこと。

ダンブがぶつつかってもビクともしなかつたというこの石柱は今まで何台の車をこわしたのか。停る時は気をつけても出発の時に忘れてドカーン。一見、首かせに見える木枠は、実は車と石柱を守るヘルメットか。

●カッター

城南小

土屋久子

この本を

- 新交際考 木村 治美 ￥ 880
- 文芸春秋
- 歴史の転換の中で 小田 実 ￥ 320
- 岩波書店
- 映像時代の読書と教育 滑川 道夫 ￥ 650
- 国土社
- 渚から来るもの 開高 建 ￥ 1,400
- 角川書店
- 日本人のからだは 水野 肇 ￥ 790
- 変わった 講談社
- 私小説 池田満寿夫 ￥ 950
- 文芸春秋
- 三河物語 大久保彦左衛門 小林賢章 上下各 ￥ 700
- 教育社
- わたしの自叙伝 NHK ￥ 1,100
- 日本放送出版協会
- 太夫才藏伝 鶴見 俊輔 ￥ 1,100
- 平凡社
- 男の神話学 外山滋比古 ￥ 980
- 中央公論社

「岡崎の教育」も間もなく八年目。不安と期待で入学した小学生も学校生活に慣れてくるギャンクエイジの時。

「腕白でもよい、たくましく育ててほしい。」とは親の願いだが、「みんなに期待され読まれる月報であってほしい。」とは編集子の願い。すこやかに育ててを願う気持は共通。

シオア

「初心忘るべからず」

卒業していく生徒のサイン帳にまた今年も書いた。

毎年、三月になると、このコトバに責められる。そして、自分自身では「実現できない」だけに、せめて教え子にはと夢をたくす。世阿弥さん、ゴメンナサイ。

あ、もう五十四年度も終わりが。月報編集の仕事は、毎号二カ月前のことをやっている宿命の稼業だ。季節感がズレて困る。今「オアシス」を書いてみると、明日から新学期が始まるような気分になって落ち着かない。まだ学芸会も終わっていないというのに。今月号で「月報」と共に僕の五年が過ぎた。

ストープ談義に花を咲かせた学芸会、灯油の値上がりにせちがらいいながら、もう卒業式の話に切り変えて、せわしなく時はめぐる。……

窓の外は明るい日ざしにさそわれた子どもたちが、早くも春のけはいを感じてか、三々五々と遊び興じるきょうこの頃。……やっぱり日本は平和ですね。……